

(論 説) ○寄生螺類の一種に就て (平瀨)

雄。翅表面は黒褐色にして前翅前角に近く一小白内點あり、又中室の前端に三個、 M_2 及び Cu_1 室の外縁に近く各一個の白色斑點を有し、 Cu_1 、 Cu_2 及び2nd A室の白色斑點と後翅中央の白色帯とは連接す、後翅肛角に近く黄褐色の環狀紋あり、又肛角も黄褐色を呈す。兩翅共外縁に沿ひ暗色の幅狭き帯斑あり、此より内側は光線の方により美麗なる紫色の幻色を呈す。

裏面は甚だ複雑なる色彩斑紋なれども表面に於ける白色斑點及び帯斑は裏面に於ても同様にして稍淡桃色を呈し後翅の帯斑は前縁に至るに従ひ幅廣く M_2 室にては外方へ突出す、前翅の中室に黒色斑點あり、又 Cu_1 室に於

●寄生螺類の一種に就て(九)

理學士 平瀨 信太郎

生殖器 (Geschlechtsorgane)

緒言

余は春夏秋冬各時期を通じて多くの標品を採集せし中約二十の稍完全なるプレパラートを製作し得たりき。其の大部分は雌にして漸く一組の雄を得たりしも不幸にして保存上不注意の點ありて雄器の完全なるプレパラートを作る能はざりき。従て茲には雌器の大略を述べ雄器に關する記述は他日の研究に俟たんとす、又余は明に雌雄異體たるを信ずと雖も今一步研究の歩を進むれば多少改正を要すべき事もあると思ふ、例へば *Protandria* 等の現象のあらはるゝやの疑もなきにしもあらず、又卵發生

て稍外縁に近く黄褐色環を有する中心藤色の黒點あり、後翅の基部内半と外縁部とは灰褐色を呈す。觸角は黒く胸部及び腹部の背面は黒く腹面は白色なり。

翅の開張、七〇・七二耗。

余の所藏標本は茂山嶺(七月)雄二頭なり。

アカホシコマタラ

Hemina ussimitis LINNAEUS.

余の所藏標本は水原六月雌一頭にして甚だ大形のものなり、翅の開張一〇二耗あり。

(Ovary) も卒業論文の一部分として時間に不足を生じ充分なる觀察をなし得ざりき、従て茲に記述せしは單に斷片的のものにして他日改正を要するや明ならんと思惟す。

(A) 解剖的觀察

雌器 (Weibliche Apparat)

卵巢 (Ovarium) 卵巢は肝臟と螺内柱 (Columella) との間にて第二螺層の初部より第四螺層の初部に至り血腔中にあり、大なる部分を占むる器官にして(第十圖, ov.)

内腔を有する多くの葉 (Lappen) よりなる、之れ等の葉は集りて遂に輸卵管 (Oviduct) となる、生時にありては卵黄粒 (Dotterkorn) の多量に存在せるにより卵巢の全體は著しく黄色を呈す。

輸卵管 (Oviduct) 卵巢を出發せし同管は非常に細かくして胃部の側方を下

り、(第十圖、1. ovi) 腎臟部の附近に達し稍く太くなり、同時に多くの巻輪 (Schlinge) を作る。次で殻腺 (Schalendrüse) を貫きつゝ腸部の右側を通り、外套腔内上蓋に位置しつゝ肛門より遙に前方外套腔口に近く開口す。

腔 (Vagina) 前述輸卵管の末端は短き腔をなせり。(第十圖、1. vag.)

殻腺と蛋白腺、殻腺に

就ては已述せり。茲に之と蛋白腺との位置に關し一言せんとす。殻腺は大なる囊にして腎臟部の近傍より腔部に至り、外套腔上蓋の大部分を占め居たり。蛋白腺 (Eiweißdrüse) は結組織に包圍されたる多くの迂曲部を有する腺にして輸卵管に沿ひつゝ肛門に終る(第十圖、sdr. c. dr.)

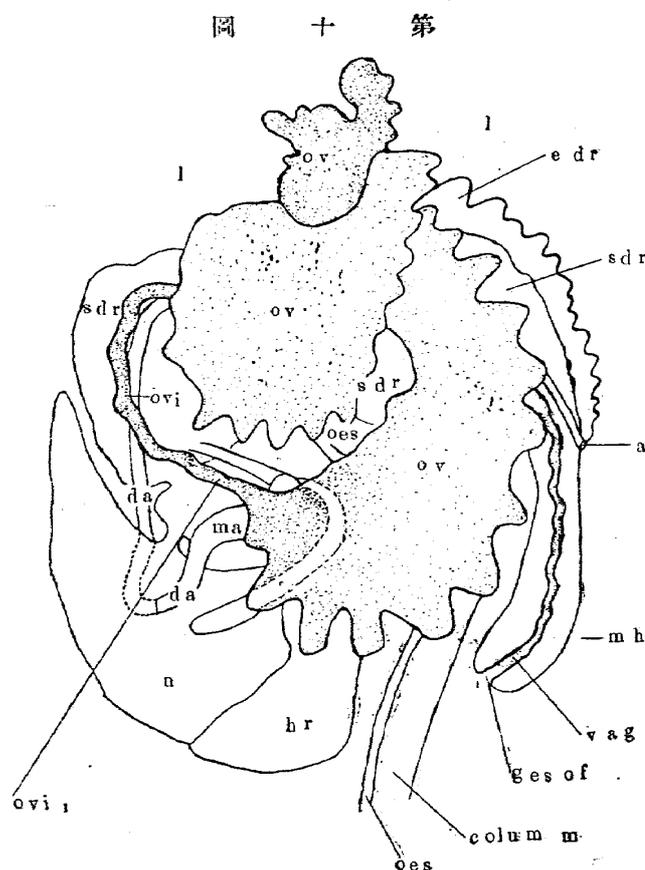
(B) 組織的觀察

卵巢、薄膜により包まれたる卵巢は其の外層に亦纖維狀の結組織よりなる薄層を有す、(第十一圖、1) 此の薄層は輸卵管の部分にありては可なり肥厚し之に筋纖維を認めたり。卵巢全體は血腔中に埋没し大部分は肝臟に取り巻かれをる事前述の如し。

表皮 (Epithel) 已述の

如く薄基膜 (dünne Basalmembrane) によりて結組織と接せる表皮層は各時期により其の厚薄に多少差異を生ず、即ち多量の卵を卵巢中に保有せる時期にありては扁平となり(第十一圖、3)、放卵直後には可なり丈高き圓筒狀のものとなる(第十一圖、2)、此の卵巢の内腔を被

包せる單層表皮は即ち生殖皮膚 (Keimepithel) として認められをるものにして、之れより卵巢細胞 (Ureter, Oo-cyten) 及び包卵細胞 (Follikelzellen) の分化あり。但し余は之を特別の發生帶 (Keimungszone) なるものを認めざり。



(論 說) ○寄生螺類の一種に就て (平瀬)

(二)、其の位置は核の周邊にありし事、
 (三)、細胞全體非常に明き觀を呈せし事、
 (四)、同時に核網も明に認められし事、
 (五)、二個の核仁の存在を認めし事、
 (六)、核全體の大きさは生殖皮膜細胞に比して大なりき、而して卵形を呈せりき、
 (七)、核の周圍の細胞質の量尙ほ少なく核の周圍に薄き被包をなせるのみなりき。

卵原細胞の分割 (Teilung in Oogonien) 余は卵原細胞の分割に於て十四の染色體 (Chromosomen) を認めたりき、之れ *Pachytene* に於けると同數なり、此の卵原細胞の繼續的の有絲分割 (dauernde mitotische Teilung) によりて若き卵母細胞 (Oocyten) (第十一圖、5) を生ず。

Leptotene Kerne 分割を終りし卵原細胞は「レプトテネ」核の時期に達す、此の時期にありては大なる染色質塊 (Chromatin Klumpchen) は細粉状となりて核網に配布せられ核全體は多少卵形を呈し、核仁は二個ありき、(但し圖には一個を示せるのみ) 細胞質は非常に少くして單に核の周邊に被包をなせるのみなりき、(第十一圖、1) 核の大きき 0.12×0.12 ミメ (長さ) 0.096×0.096 ミメ (幅)、核仁の直徑 0.0024×0.0024 ミメ 細胞質の厚さ 0.0024×0.0024 ミメ。

此の時期の終末に當りて細粉となりし染色物は其の數を減じつゝ細粒となりて核網上に帶狀に配列さる、此の帶狀染色質 (fadenförmige Chromatin) は各其の一端を以

(論 載) ○寄生螺類の一種に就て (平瀬)

て核仁に集中し恰も此等帶狀染色體は核仁より放射狀に出づるか如き觀を呈せりき、(第十一圖、2)

此の帶狀體は單一的のものなりき或は染色質が己に多くの長き小帶狀體に分割されありやは明に認めざりき、細胞全體の大きさに著しき増大を見ず、唯だ其の形狀多少扁平となりしのみ、核も卵形なりき、大なる核仁の他に若干の小核仁を見たりき、(第十一圖、3) 細胞の長さ 0.02×0.02 ミメ、幅 0.0144×0.0144 ミメ、核の長さ 0.012×0.012 ミメ、大なる方の核仁の直徑、 0.004×0.004 ミメ。

Synapsis-stadium 此の期にありては染色帶に僅少の短縮を來たし總て染色體は若干肥厚す、之れと同時に之れ等染色帶は核の一點に纏れ始め、なほ進みたるものによりては此の染色帶の連結進み模範的の「シナプシス」期をあらはすに至れり。

Pachytene Kerne 此の期のものに次の諸點を觀察し得たりき、

(一)、染色帶は益々短縮する事、
 (二)、同時に肥厚の程度も顯著となる事、
 (三)、染色質は多くの小斷片に集結する事、
 (四)、「シナプシス」の纏れは徐々と解離し來る事、
 (五)、此の斷片的染色質は核網により連結さるゝ如き外觀を呈し、此の染色質は極配列をなす事圖の如し (第十一圖、4)

(六)、余はなほ此の時期のものに次の面白き現象を見

(論 説) ○九州より始めて知らるる鳥類 (黒田)

たりき、(a)、肥厚せる帯状染色體に縦の分裂を認めし
事 (b)、此の帯状染色體の各染色片は縦の分裂により
て正しく相對せる位置をとれる事、

(七)、此の染色帯は七本を數へ得且つ之等は正しく蕃
薇色冠の形をとれりき。細胞の長さ〇〇一六〇ミメ(長
さ)〇〇〇一一二ミメ(幅)、核の長さ〇〇一二二ミメ、(第十
一圖、9)

Diploene Kerne 此の期の細胞は卵形なり、(第十一圖、
10) 染色帯は徐々に核を中心に射出的の配置をとり始め
從て平行の體形消失す、此の染色帯は若干の大なる塊と
なり塊は又細分し之れ等細分せし染色帯は核網上に規定
の配置をとり、細胞は休止状態 (Ruhstadium) に入る、
此の時には細胞は多少増大す。細胞の長さ、〇〇〇〇ミ
メ、同幅〇〇一六〇ミメ、核の幅、〇〇〇八八ミメ、同

●九州より始めて知らるる鳥類

理學士 黒田長禮

オホミスナギドリ (カチ)

從來九州本島にて獲られし報告なき鳥類を左に紹介
す。大部分の種類は昨年余が筑前及び豊前の一部にて採
集を行ひし節獲たるものなり。括弧内の名稱は筑前の方
言なり。

1. *Puffinus leucomeclus* TEMM.

長さ、〇〇一二二〇ミメ、核仁の直径、〇〇〇四〇ミメ。
以上増殖 (Vermehrung) を終はりたる細胞は徐々に成
長 (Wachstum) を始むるなり。

挿圖説明、第十圖、生殖器を主とする復成法による圖、第十一圖、
切片の厚さ、8μ 倍數、八百七十倍、B.M. 基膜、(1) 卵巢表皮層の一部、
B.S. 結組織、(2) 放卵直後の生殖皮膚細胞の一部、(3) 卵を以て充滿せる
時の生殖皮膚細胞の一部、B.L.K. 瘤状凸出物を有する核、(4) 包卵細胞の
形成明白なる卵母細胞の一部、Tz. 包卵細胞、K. 核、K.K. 核仁、(5) 卵原細
胞の一部、(6) 有絲分割後の卵母細胞の一部、(7) Leptokene Kerne 時期に於ける
一例、(8) 同上末期の一例、(9) Paulykone Kerne 時期に於ける一
例、(10) Diploene Kerne 時期に於ける一例、L. 肝臓、edr. 蛋白質腺、
ov. 卵巢、sdr. 腺腺、a. 肛門、ces. 食道、ovi. 輸卵管、da. 腸、ma. 胃、
mi. 外套腔、h. 腎臟、hr. 心臓、ovi. 輸卵管の初部、vag. 陰、tes. 卵、
生殖開口、Colum. m. 肉柱。

採集地、福岡縣糸島郡玄界島沖(雄一)
年月日、大正七年八月三日(黒田採集)
玄界島より餘り遠からぬ島にて蕃殖するものあり得べ
し。